

華夷思想と中国の政治

2014年7月19日
於佐倉市国際文化大学
敬愛大学 家近亮子



2011年5月14日の国際文化大学での 私の講演の「おわりに」

中国は、「中国脅威論」を払拭すべく、「與隣為善 (yulinweishan)、以隣為伴(yilinweiban)をスローガンとして、周辺諸国、特に東南アジアとの関係を強化しようとしている。



目標としての「和諧世界」外交

3年を経た現在、胡錦濤路線は転換され、「中国脅威論」は現実化し、領海をめぐる周辺諸国とは「與隣為威(wei)、以隣為違(wei)」の道を突き進んでいる。

中国のねらいは何か？

—近代以前の中華世界の再興

「華夷的世界秩序」

「中華思想」

* 中国語…

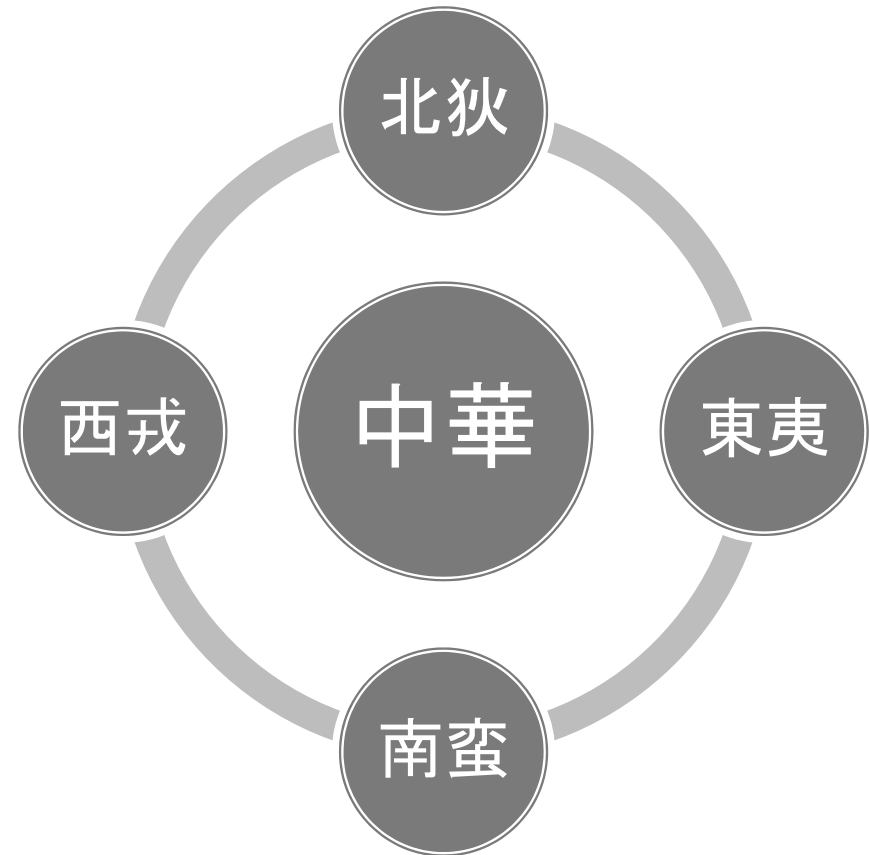
「中国中心主義」

* 英語…

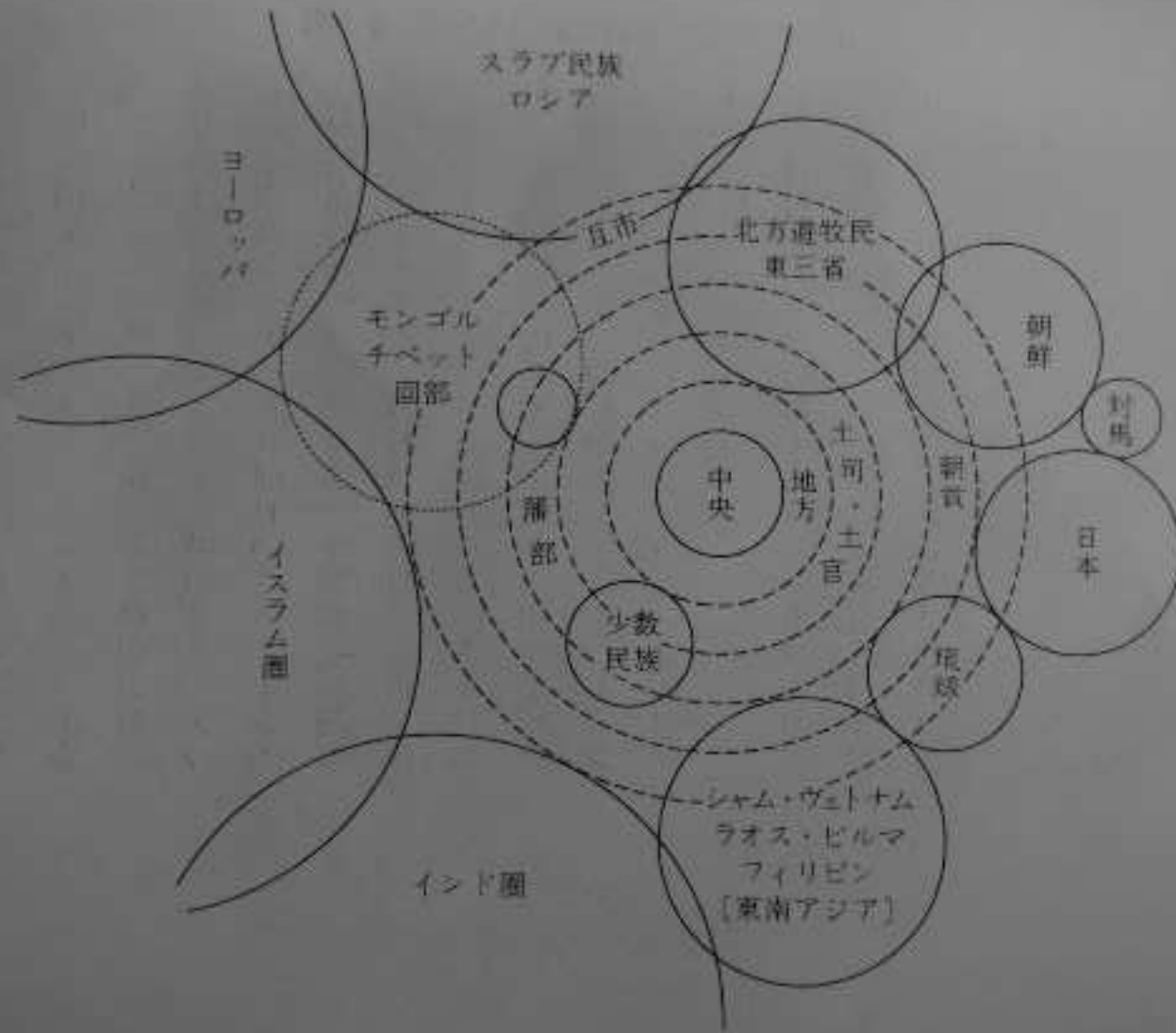
“Sinocentrism”

中国が宇宙の中心

文化・思想は神聖



華夷秩序の概念図—①

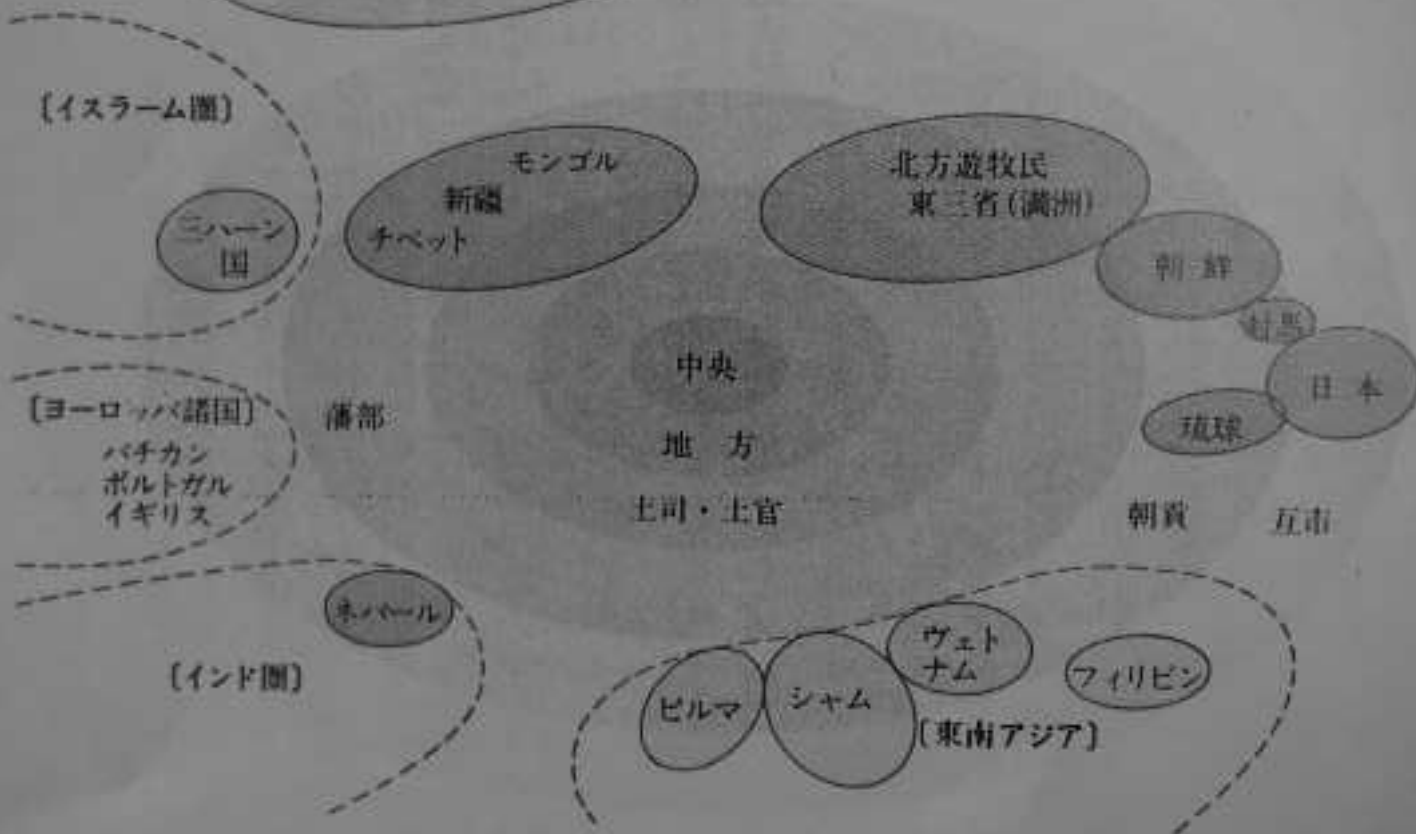


華夷秩序の概念図一②

清朝の地域秩序

ロシア

(漢下武志「近代中国の国際的契機」東大出版会、1990年、33ページより。一部改変)



同上、11頁

清朝の華夷秩序

中央・・・北京の皇帝を中心とした六部(吏・戸・礼・兵・刑・工部)による行政機構

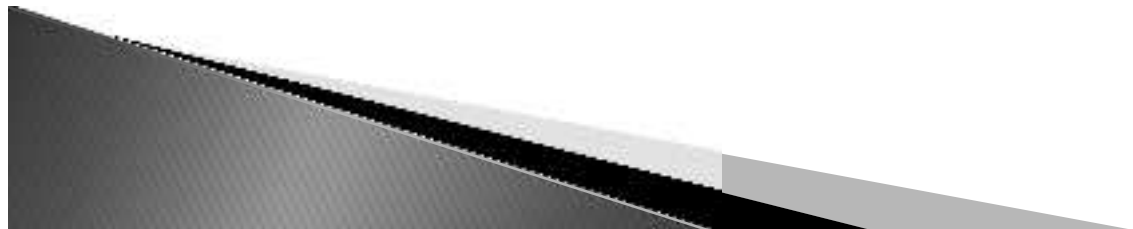
地方・・・「回避制度(親族回避・本籍回避)」による官僚支配。官吏は同じ場所には長く留まらない。

土司・土官・・・地方とは異なり土着の官吏(世襲制)を指す。少数民族の指導者を地方官に任命して統治にあたらせ、間接統治をおこなった。

化外の地・・・統治のおよばない所。

藩部・・・藩属地域に対する総称。内・外モンゴル、青海、チベット、新疆地方。直轄地ではない自治が許された版図。「理藩院」によって統治された。藩部相互の分離統治。藩部と中国本土との分離統治。

朝貢・・・朝貢(特産物を貢ぎ、返礼として中国のものをもたせる・援助)を媒介とした宗主国・藩属国(主従の位相関係)



宗属関係

1. 藩属国の義務

①中国の皇帝に忠誠を誓う。

→中国と同じ年号を使う。「一世一代制」

②定期的朝貢

→自国の特産物を貢ぐ。中国は返礼として中国の特産物を返す。お返しの方が高価。一種の援助貿易

2. 宗主国の義務

①冊封・・・藩属国の君主に対して、その国の統治を認める。

②有事の時に軍隊を派遣→「清仏戦争」「日清戦争」

→本来、近代的植民地 ≠ 兄弟関係

蔣介石の領土意識

※華夷思想と近代的国民国家意識が混然一体となる……自己矛盾を起こす

①イギリスへの対抗上……反帝国主義、民族自決を主張。→印度の独立を支持。

②清朝時期の版図への強いこだわり

例)・1942年3月印度訪問時、飛行機からベトナム・タイ・ビルマを見下ろし、「かつては我が国の領土であった」。

・1943年11月のカイロ会談の際、琉球を「我が領土」と称する。

・1945年8月のソ連と外モンゴル独立問題の協議中、「外蒙には高度の自治を与え、中国は宗主国となる」

中国共産党の領土認識

※ 基本的には、反帝国主義闘争 → 民族自決
日中戦争時期と国共内戦期は、領土問題にはふれない



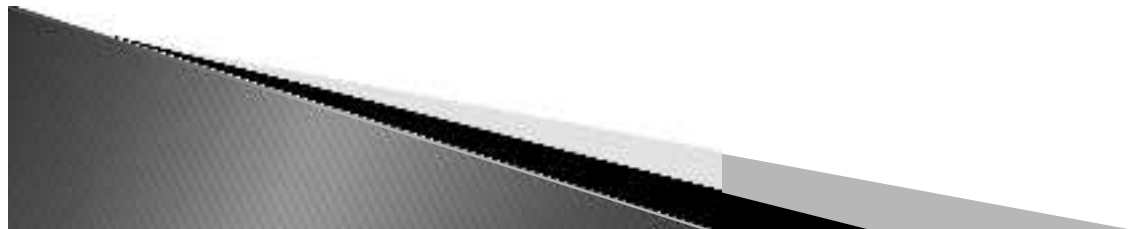
近代からの領土問題の基本は、対露・英であった。
共産党は二国からの援助を得るために、領土問題を棚上げにする。

例) 外モンゴル・香港・ウイグル・チベット



しかし、経済発展をとげ、大国化宣言をおこなった中国は、
周辺諸国へ影響力の拡大を企図。

→ 国名の「中華人民共和国」の意味。



近代以降、中国の国際的地位の変遷

※清朝時期・・・アジアにおける華夷的世界秩序の維持

1. 阿片戦争後・・・不平等条約体制下におかれる。

孫文・・・次植民地状態

毛沢東・・・半植民地状態

2. 華夷秩序の崩壊・・・清仏戦争(1884年)・

日清戦争(1894年)

3. 孫文・蔣介石の外交目標・・・平等な国際的地位の獲得・不平等条約の廃棄

4. 蔣介石の外交戦略(「外交は無形の戦争論」)・・・日本との矛盾を国際化。正当性を訴え、同情と援助を得る。

→最大の外交果実・・・太平洋戦争下での四大国の地位の獲得 →戦後の国連安全保証理事国(五大国)の地位へ

联合国26力国期

